

平成 28 年度 北里大学獣医学部における動物実験に関する自己点検・評価 報告書

1. 動物実験に関する学部等の内部規則について

評価結果：基本指針に適合する機関内規程が定められている。

自己点検の対象とした資料：

- 北里大学遺伝子組換え実験安全委員会規程（昭和57年4月1日制定）
- 北里大学バイオセイフティ委員会規程（平成6年12月16日制定）
- 北里大学獣医学部放射線障害予防規程（平成22年9月13日）
- 北里大学における動物実験等に関する規程（平成20年7月4日制定）
- 北里大学獣医学部における動物実験等に関する規程（平成22年12月15日制定）
- 北里大学獣医学部動物実験委員会規程（平成22年12月15日制定）
- 北里大学獣医学部動物実験倫理委員会規程（平成22年12月15日制定）
- 北里大学獣医学部動物実験施設等管理委員会規程（平成22年12月15日制定）
- 北里大学獣医学部動物実験施設SOP（平成27年4月1日制定，平成29年度1月25日改訂）

2. 学部動物実験倫理委員会について

評価結果：基本指針に適合する動物実験倫理委員会が置かれている。

委員会名簿

氏名	専門分野	役職	学位	資格
橋本 統	実験動物学	委員長・准教授	博士(獣医学)	獣医師
佐々木宣哉	実験動物学	教授	博士(医学)	獣医師
岡田 宗善	獣医薬理学	准教授	博士(獣医学)	獣医師
寺島 涼太	獣医生理学	助教	博士(獣医学)	獣医師
山本 裕司	細胞分子機能学	講師	博士(農学)	
中村 和市	毒性学	教授	獣医学博士	獣医師
木村 祐哉	獣医第1内科学	講師	博士(獣医学)	獣医師
近澤征史朗	獣医第2内科学	講師	博士(獣医学)	獣医師
岩井 聡美	獣医第2外科学	准教授	博士(獣医学)	獣医師
落合 優	栄養生理学	講師	博士(農学)	
田邊 太志	獣医微生物学	准教授	博士(獣医学)	獣医師
高野 友美	獣医伝染病学	准教授	博士(獣医学)	獣医師
高橋 辰行	動物代謝機能学	助教	博士(農学)	
鈴木 喜博	動物健康情報学	助教	博士(農学)	
小笠原英毅	畜産学	助教	博士(農学)	
佐藤 越萌	畜産学	事務員	修士(農学)	

自己点検の対象とした資料：

- 北里大学獣医学部動物実験計画書作成マニュアル
- 北里大学獣医学部麻酔・鎮痛・安楽殺マニュアル
- 北里大学獣医学部苦痛カテゴリー検索表
- 北里大学獣医学部胎児・新生児の鎮痛・麻酔及び安楽殺の基準

北里大学獣医学部投与量・採血量の基準
 平成28年度動物実験・実習計画書 (164件)
 平成28年度動物実験・実習計画書審査議事録

評価結果の判断根拠

- ・対面式による委員会が3回、メールによる委員会が7回開催された。
- ・委員会の審査方法：各委員に計画書をメールにて送付し、各委員が審査シートに審査コメントを記入し、委員長が意見を取りまとめ実験・実習責任者に改善・修正点を周知した。修正された計画書を再度審査し、2/3以上の承認が得られた計画書を、学部長が最終的に承認した。実験計画の疑問点が解消されない場合、委員長が個別に責任者に対するヒアリングを行った。
- ・審査において、代替法の利用、使用数削減、苦痛の軽減、特に適切な麻酔薬、鎮痛薬等の利用、実験の終了の時期、適切な安楽死の選択について詳細に検討を行った。
- ・申請件数165件 承認164件 152件 (92.68%)にコメントがつき、修正・改善の後、再審査され、承認された。計画書の苦痛のカテゴリー分類及び改善・修正に関するコメント数は以下の表の通りである。

苦痛のカテゴリー	A	B	C	D	全計画書
実験計画書数	1	60	38	65	164
苦痛カテゴリー当たりの合計コメント数	1	183	138	242	564
1計画書当たりの平均コメント数	1.00	3.05	3.63	3.72	3.44

3. 動物実験の実施体制・状況について

評価結果：おおむね基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。

自己点検の対象とした資料：

- 平成28年度 教育訓練資料
- 平成28年度 動物実験終了・中止・年次報告書 (193件)
- 平成28年度 中大動物安楽死処置確認書 (28件)
- 平成28年度 飼養保管施設/実験室/実習室設置申請書・審査記録
- 平成28年度 飼養保管施設の健康記録および清掃記録
- 北里大学獣医学部動物実験施設SOP
 - ・各飼育室/ケージの標準的な収容頭数・施設及び飼育室への入退室・導入/順化の方法
 - ・飼料/飲水/ケージの交換、清掃の頻度と方法・器材の洗浄/消毒/滅菌の方法
 - ・動物の数の確認や異常の観察の方法・飼育数あるいは出入記録・廃棄物処理
 - ・連絡体制・動物の逸走防止対策、逸走時の対応・緊急時の対応 等

平成 28 年度に使用した実験動物の種類と数

動物種	使用数	動物種	使用数
マウス	6,433	ウシ	544
ラット	1,764	ウマ	86
モルモット	2	ヒツジ	125
ウサギ	6	ヤギ	11
イヌ	194	ニワトリ	483
ネコ	96	コアラ	12
ブタ	102	ピューマ	1
レッサーパンダ	19	カナダカワウソ	1
ライオン	2		

平成 28 年 4 月 1 日-平成 28 年 3 月 10 日までの使用数
飼育/観察のみ・研究材料提供のみの研究課題 (苦痛のカテゴリーA)を含む

飼育中の実験動物の種類と数

動物種	使用数	動物種	使用数
マウス	1,321	ウシ	311
ラット	282	ウマ	75
イヌ	50	ヒツジ	163
ネコ	160	ヤギ	10
ブタ	98	ニワトリ	1

平成 29 年 3 月 17 日現在

平成 28 年度に行った教育訓練

獣医学科 1 年生 142 名、(3 時間)

獣医学科 3 年生 139 名、(6 時間)

獣医学科 4 年生 140 名、(2 時間)

獣医学科 6 年生 138 名、(2 時間)

動物資源科学科 3 年生 133 名、(6 時間)

内容：動物実験の法規・指針、麻酔/鎮痛/安楽殺法、人道的エンドポイント、
環境エンリッチメント、労働安全、動物実験計画書の作成方法/審査方法、外部検証等

評価結果の判断根拠

- ・中大動物動物を用いた研究の場合は、実験計画書に記載された安楽殺処分のプロトコールが実行されているかを委員会が確認した (28件)。
- ・新設の飼養保管施設・実験室は、各部屋の使用動物や飼育状況を反映させたSOPを整備し、飼養保管を適正に実施する体制を整備した。委員会が週3回以上、各施設の飼育状況および健康記録/清掃記録ノートを確認した。要改善箇所については、指導助言を行っており、適切に改善された。
- ・平成28年度 動物実験終了・中止・年次報告書は100%の提出を受けており、その内容について委員会が審査し、要改善箇所については、指導助言を行った。
- ・飼養保管状況や実験方法についての問題点の早期発見、対処を目的として動物福祉の相談窓口 に寄せられた投書内容を検討し、要改善箇所については、指導助言を行った。

- ・ イヌ・ネコの飼養管理については、獣医学的ケア、健康診断の頻度、エサの管理、カルテの保存期間、運動の回数について検討し、SOPを改定した。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の確認体制について

評価結果のまとめ：全計画書において、「遺伝子組換え実験」、「感染動物実験」、「放射性同位元素・放射線使用実験」、について、当該委員会等の承認手続きを経ていることを確認した。